

Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 藤岡淳子教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 47 p.301-p.305
Issue Date	2021-03-08
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79083
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

【定年退職教授の履歴および主要業績】

藤 岡 淳 子 教授

ふじ おか じゅん こ
藤 岡 淳 子 教授

1979 年 3 月 上智大学文学部卒業
 1981 年 3 月 上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了
 1981 年 4 月 法務省入職 国家公務員上級職（心理）
 1990 年 8 月 米国イリノイ州立南イリノイ大学大学院司法行政学専攻修士課程修了
 2002 年 3 月 法務省退職
 2002 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科教授
 2021 年 4 月 大阪大学名誉教授

藤岡淳子教授は、1981 年 3 月に上智大学大学院文学研究科博士前期課程を修了後、国家公務員上級職（心理）として法務省に採用され、法務省矯正局総務課ほか、少年鑑別所、少年院、刑務所等の矯正施設において、非行少年・受刑者の心理的アセスメントと犯罪行動変化への心理的・教育的介入に 20 年間にわたり携わった。法務省在職中に法務省から派遣されて、米国イリノイ州立南イリノイ大学大学院少年非行研究センターに留学して、司法行政学を学び、1990 年 8 月に同大学院で社会学修士号を取得した。2001 年 4 月に多摩少年院教育調査官への昇任後、2002 年 4 月 1 日に大阪大学大学院人間科学研究科の教授として着任した。本研究科就任後は、教育心理学分野の教員として教育、研究に貢献し、2021 年 3 月 31 日限り同大学院同研究科を定年退職するものである。なお、2009 年に大阪大学より博士（人間科学）学位を授与されている。

教育・研究に関する功績

長年、司法・犯罪分野において非行・犯罪行動のある少年及び成人の査定と教育に携わり、国内外での研究活動にも従事した。その豊かな臨床経験と専門的知見は、2002 年から 18 年間にわたる大阪大学大学院人間科学研究科での学生の教育と研究活動に役立てられ、同研究科臨床教育学講座教育心理学分野の運営と発展に寄与した。地域においては、児童相談所や児童自立支援施設、刑務所などの教育活動のスーパービジョンや研修活動を積極的に行い、先駆的な教育プログラムを開発、実践するなど、現場に研究の知見を活かし、連携を広げてきた。その活動により第 6 回作田明賞を受賞した。またその活動の一端は、2020 年度文化庁記録映画大賞を受賞した刑務所内治療共同体を描いた映画「プリズン・サークル」に見ることができる。

研究領域は、司法領域の処遇効果評価研究や再犯防止といった司法行政学、司法臨床心理学から、関係性の修復や教育にまつわる心理臨床的技法としてのリフレクティング・トークやグループ・アプローチ、さらにロールシャッハ・テストなどの心理査定など非常に幅広く、学際的な専門性に基づく研究活動に取り組まれてきた。著作も多く、「非行少年の加害と被害」、「性

暴力の理解と治療教育」、「非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用」（いずれも誠信書房）などの専門書のほか、公認心理師の養成や実務家のリカレント教育を目的としたテキスト「司法・犯罪心理学」（有斐閣）を編纂するなど、日本の非行犯罪臨床の理論化と効果的な介入技法の開発を牽引してきた。

学内及び学外における功績

日本犯罪心理学会、日本心理臨床学会、日本犯罪社会学会、日本トラウマティック・ストレス学会、日本子どもの虐待防止学会等の学会活動に従事し、複数の学会で理事・査読等を務めた。このうち、2011年8月には、日本犯罪関連学会連合会との共同開催による国際犯罪学会第16回世界大会（神戸国際会議場）の運営を行い、さらに2020年11月には、大阪大学において日本犯罪心理学会第58回Web大会を開催し、大会長として学会の進展に関与した。

学内においては、ハラスメント対策にも尽力し、学生への支援のみならず教育環境の改善に大きく貢献した。部内においては、ハラスメント防止委員会、大学院入試運営委員会、学生生活支援室長等を務め、大学の管理運営にも関わった。2019～2020年度は、公認心理師プログラム運営室室長として、学生の教育と実習先である多くの機関との連携と調整、管理にあたった。

以上、藤岡淳子教授は、大阪大学及び人間科学研究科における研究、教育、運営を通じて、その充実と発展に貢献を果たすとともに、我が国の司法犯罪領域の研究や実践により、わが国の学術振興にも大きく寄与されている。

主 要 業 績

主要著書

1. 藤岡淳子 (2017) 「非行・犯罪の心理臨床」 日本評論社
2. 藤岡淳子 (2014) 「非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用」 誠信書房
3. 藤岡淳子 (2006) 「性暴力の理解と治療教育」 誠信書房
4. 藤岡淳子 (2004) 「包括システムによるロールシャッハ臨床」 誠信書房
5. 藤岡淳子 (2001) 「非行少年の加害と被害」 誠信書房

他 20 冊

主要学術論文

1. 藤岡淳子 (2016) 「性犯罪者を抱えた家族の支援」 家族心理学年報, 34, 97-105.
2. 藤岡淳子 (2015) 「性犯罪のアセスメントと教育的調整」 臨床心理学, 15 (4), 489-493.
3. 藤岡淳子 (2012) 「性暴力行動の評価と介入」 精神科治療学, 27 (6), 751-756.
4. 藤岡淳子 (2011) 「刑事司法と社会福祉の連携の現状と課題～再犯予防の観点からみた連携」 犯罪と非行, 167 巻, 5-25.
5. 藤岡淳子 (2000) 「塀の中の性犯罪者治療－日本の現状と課題」 アディクションと家族, 17(3), 261-270.

他 46 編